

事業所名		放課後デイサービスちやるむ				公表日	令和8年 3月 28日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	10		基準以上の配置をしている。手厚いと思う。	子どもの様子によって難しい時もある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	1	パーテーションなどを使ってスペースを分けるなど調整をしている。	吹き抜けになっているため構造化はしにくい。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		掃除機やトイレ掃除は毎日必ず行っている。空気清浄機も数台設置している。	毛布や布類の洗濯の頻度を確認していく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	1			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	2	事前打ち合わせと療育後の振り返りの際に、業務について改善が必要なことは確認している。	目標設定が明確になっていない場合がある。現状はまだ全職員が参画できていない。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		毎年アンケート調査を実施。いただいたご意見は、検討し改善をした内容もある。（送迎のご等）意見箱の設置も行っている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1	その都度意見をもらい改善に取り組んでいる。管理者が常に気軽に意見を聞く姿勢でいてくれる。	定期的に機会が設けられてはいない。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9	1	2024年に実施済み。改善が必要だった点はすべてではないが改善している途中。	すべて必ずしも改善されていない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	10				
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		HPにて公表されている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10		懇談記録や発達テストの情報、また課題に関する保護者のアンケートを元にケース会議を行い、計画を作成している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		各グループのリーダーや関わる職員がケース会議に参加し計画立案している。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		事前打ち合わせ、振り返りの際に計画課題について確認しあうようにしている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	1	発達検査を実施。他所での発達検査結果の情報も得るようにし、心理士が分析、共有している	子ども全員がフォーマルなアセスメントがあるわけではない。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10		こどもの様子・成長・本人の困り感から、課題、ねらい、手立てを設定し明記している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10		リーダーの職員を中心に、他職員の案も積極的に反映しながらチームで立案している		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		室内外問わずに常に工夫している。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10		集団活動が主になっているグループもあるが、必要な場合は個別活動も実施している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10		時間がない場合は次の活動日までに共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		支援の中で特出すべき点を端的に記録し、検証と次回への課題を明確にしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10		保護者には1年に1度は聴取・見直し、職員間では6カ月に1度見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	9	1		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10		こどもが混乱しないように気をつけながら、こども自身が選んだり、考えたり、主張できるように環境を整え、支援している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	1	グループのリーダーや担当職員が参画している。会議の実施も必要だと判断した場合には関係機関に積極的に呼びかけている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	1	各機関との連携が必要な場合は、責任者、または児発管、または担当心理士が対応できるような体制を整えている。	全児童に対してではない。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9	1	保護者からの情報を受け取る、または学校からの問い合わせ、要望は受付、対応している。	常にやりとりする内容がない。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	10		入所前に情報引継ぎ、確認を行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	8	就労支援事業所の職員と共同で活動を行っている。	卒業生がまだいない。来年度初めて高校を卒業する児童がいる。本人や保護者から希望があった場合は情報提供をしていくつもり。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8	2	あゆみ園と連携している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	8	外出先の公園などで地域の子どもたちと関わることはある。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	10		協議会主催の会合や研修会など機会があれば積極的に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		半期に一度、子どもの報告書を保護者へ提出、連絡ノートのやり取りを実施。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	6	ペアレントトレーニングではないが、専門職と保護者との懇談の機会を設けたり、講演会等のちらしを設置する等、情報発信している。	
保護者への	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	1	毎年、説明の時間を設けている。	交通費の金額の説明が不十分だという指摘が保護者1名からあった。わかりやすく記載するよう改善する。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		小学生は保護者から、中学生は本人から可能な限り意向を確認している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9	1	児発管より説明し、計画書への署名を依頼している。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		相談があれば心理士を中心として面談を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		10		要望があれば検討したい

説明等	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	1	苦情受付窓口を設けたり、意見箱を設置し迅速対応・整備しているが、子ども・保護者への周知は内容により判断している。	周知をしていない内容もある。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6	4	活動概要や行事予定は手紙やノートなどで随時お知らせしている。	活動内容のお知らせが十分ではない。今後はインスタでの発信を検討している。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		10		法人とともに検討する。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10		マニュアルはすべて策定済み。訓練も実施している。	保護者への周知はしていない。災害時の避難経路などもしおりにて掲示しているが、わかりやすく伝わるよう心がける。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		職員での訓練は定期的に行い、今年度も子どもたちも参加し地震時の避難訓練を行った。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	10		確認し、対応方法も関わる職員は共有している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	4	保護者を通して医師の指示を確認している。その内容はキッチンに掲示し常に確認できるようになっている。	医師からではなく保護者から知らせてもらうのみ。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10		毎年安全計画が立案され、外出先の公園や施設内の点検を定期的に行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10		水辺への外出時など、必要な時に随時説明している。	取り組みの内容を細かく説明はしていない。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		療育前に必ず確認し、事例集を作成している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		マニュアルを作成し委員会も設置。職員全員に対して定期的に研修を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10		組織的に決定および保護者への事前説明、了解はいただいている。計画書への記載もしている。		